

# 教育相談事例研究 (その3)

— 学業不適応と異常行動を主訴として来所したA君 (小3男) —

研究・相談部 吉 川 浩 先

## 1. 学級担任の主訴

学力が小学2年生程度で、国語・算数が特に劣っている。(WISC知能診断検査→測定不能)

作業化された活動でも完成することがほとんどないし、簡単なルールのゲーム的な体育の活動にも参加できない。

授業中、たえず席を離れ、四つん這いになって、机の下にもぐりこむ。

友人がいなく、休み時間にも1人ぼっちで、石をけったりして過ごす。

帰宅後、家の周辺で、ビールビンに石をぶっつけてこわす遊びなどを行っていることが多い。

現在籍の普通学級3年にはついていけないと思うかどうか。

## 2. 母親の主訴

学力が低く、学校での行動に落ち着きがない。1年のころから、気にしていたが、担任のいうように特殊学級での指導を受けた方が良いのだろうか。

## 3. 生育歴

胎内期：父は家業不振 (建築業) のためノイローゼになり入院。祖父母および失職中でぶらついている叔母・姉の7人家族を、母ひとりがかかえ、生活保護も受けず、家事・家業一切をとりしきっていた。

心身ともに緊張の連続であったが、幸いにして母体・胎児ともに健康を損うことはなかった。

周産期：異常なし。

3才児検診時：特記事項はない。

哺乳：母乳6か月まで、その後4才まで人工栄養 (家業のため、祖母に委ねた)

始歩：1才2か月

始語：1才 (マンマ)

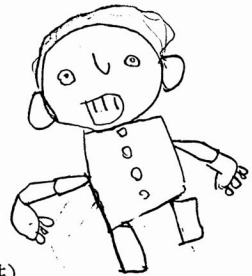
その他：0~9か月に夜泣きが目立った。3才の時、左下肢をナタで傷ける (遊び中の誤ち) 顔に生傷が絶えなかった。5才時、保育所に入所したが、絵・書字はよくやったが、夜尿・頻尿がみられた。魚・肉類が嫌い。小学校に入学後、すり傷をでかして帰宅することがたびたびであった (「お前の父ちゃん 気がいい」とやじられ、数人の上級生につき倒された。— 転び易い子ではあったが)

## 4. 諸検査および調査等

(1) 人物テスト (S52, 7.21, 実施)

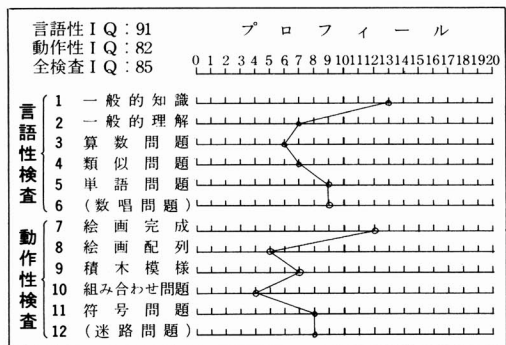
○グッドイナフ法によれば、MA (精神年齢) は6才9か月、IQは81

○コピッツ法によれば、器質的徴標が4点で、器質的問題への疑診が濃い。また、情緒指標のチェックが4件で、不安と攻撃性が投影されている。(註)



(2) WISC知能診断検査, (小生とのレポートもかなり深まり、課題的な場面での達成意欲も示し始めたので来所5度目で、S52. 11. 1. に実施)

○結果は下図のとおりであった。



知能段階については、人物画テストの結果とほぼ一致 (特に動作性IQと) し、中の下 (境界線より高い) とみられる。

また、言語性IQ > 動作性IQと、評価点のバラつき、人物画テストの器質的徴標のチェックから、器質障害への疑診がある。

(3) 本人との面接や遊戯室での観察から

○顔に擦り傷、その他の傷痕が無数、比較的新しいのに、右頬の擦り傷 (帰宅途中、上級生にとりかこまれ、「お前の父ちゃん、なんして家にいないんだ」と問われたが、だまっていたら、一人が、うしろから押したので、ころんだとのこと) がある。

○砂遊びに夢中、スコップで、砂車に砂を入れたり、一輪車で運ぶ etc.